

## 執筆者紹介

### \*藤田 政博 (ふじた・まさひろ)

序章・07章

1973年生。東京大学大学院法学政治学専攻科博士課程修了/博士(法学)

関西大学社会学部准教授

[主要業績]

『司法への市民参加の可能性』(有斐閣, 2008年)

『裁判員制度と法心理学』(ぎょうせい, 2009年/共編)

### 越智 啓太 (おち・けいた)

01章

1965年生。学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了

法政大学文学部教授

[主要業績]

『progress and application 犯罪心理学』(サイエンス社, 2012年)

『犯罪捜査の心理学』(化学同人, 2008年)

### 若林 宏輔 (わかばやし・こうすけ)

02章

1982年生。立命館大学大学院文学研究科博士後期課程修了/博士(文学)

立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員

[主要業績]

『社会と向き合う心理学』(新曜社, 2012年/共編)

『寺田精一の実験研究から見る大正期日本の記憶研究と供述心理学の接点』心理学研究83(3)(2012年/共著)

### 周防 正行 (すお・まさゆき)

COLUMN01

1956年生。立教大学文学部卒業

映画監督

[主要作品]

『それでもボクはやってない』(東宝, 2007年)

『終の信託』(東宝, 2012年)

### 指宿 信 (いぶすき・まこと)

03章

1959年生。北海道大学大学院博士後期課程単位取得退学/法学博士  
成城大学法学部教授

[主要業績]

『証拠開示と公正な裁判』(現代人文社, 2012年)

『冤罪原因を調査せよ』(勁草書房, 2012年/監修)

### 大上 渉 (おおうえ・わたる)

COLUMN02

1973年生。九州大学大学院文学研究科博士前期課程修了

福岡大学人文学部准教授

[主要業績]

『日本における国内テロ組織の犯行パターン』心理学研究84巻3号(2013年)

『犯罪現場に遺された血や血痕の知覚優位性』犯罪心理学研究49巻2号(2012年)

### 敵島 行雄 (いつくしま・ゆきお)

04章

1952年生。日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了/文学博士

日本大学教授

[主要業績]

『記憶と日常』(北大路書房, 2011年/編著)

『心のかたちの探求』(東京大学出版会, 2011年/分担執筆)

### 仲 真紀子 (なか・まきこ)

05章

1955年生。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位取得中退/学術博士

北海道大学大学院文学研究科教授

[主要業績]

『法と倫理の心理学』(培風館, 2011年)

『認知心理学』(ミネルヴァ書房, 2010年/編著)

### 浜田寿美男 (はまた・すみお)

06章

1947年生。京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学

立命館大学特別招聘教授/奈良女子大学名誉教授

[主要業績]

『私』とは何か』(講談社, 1999年)

『自白の心理学』(岩波書店, 2001年)

荒木 伸怡 (あらかき・のぶよし) COLUMN03  
1944年生。東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了/法学博士  
国士館大学大学院客員教授/立教大学名誉教授  
〔主要業績〕  
『裁判 その機能的考察』(学陽書房, 1988年)  
『刑事訴訟法読本』(弘文堂, 1996年)

後藤 貞人 (ごとう・さとと) 08章  
1947年生。大阪大学法学部卒業  
弁護士  
〔主要業績〕  
『被告人の事情/弁護人の主張』(法律文化社, 2009年/共編)  
『絞首刑は残虐な刑罰ではないのか?』(現代人文社, 2011年/共編著)

綿村英一郎 (わたむら・えいいちろう) 09章  
1978年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士後期課程修了/博士(心理学)  
日本学術振興会特別研究員〔慶應義塾大学〕  
〔主要業績〕  
「量刑判断にはたらく応報的動機の認知プロセス」法と心理11巻1号(2011年/共著)  
‘Can Jurors Free Themselves from Retributive Objectives?’ Psychological Studies56  
(2)(2011年/共著)

佐伯 昌彦 (さえき・まさひこ) COLUMN04・10章  
1984年生。東京大学大学院法学政治学研究所修士課程修了  
千葉大学法経学部准教授  
〔主要業績〕  
「犯罪被害者による刑事裁判への参加が量刑に及ぼす影響」法学協会雑誌127巻3号  
(2010年)  
‘Victim Participation in Criminal Trials in Japan’ International Journal of Law, Crime  
and Justice 38 (4) (2010)

廣井 亮一 (ひろい・りょういち) 11章  
1957年生。新潟大学法文学部卒業/学術博士〔大阪市立大学〕  
立命館大学文学部教授  
〔主要業績〕  
『司法臨床の方法』(金剛出版, 2007年)  
『司法臨床入門〔第2版〕』(日本評論社, 2012年)

村井 敏邦 (むらい・としくに) COLUMN05  
1941年生。一橋大学法学部卒業  
大阪学院大学大学院法務研究科教授/一橋大学・龍谷大学名誉教授  
〔主要業績〕  
『裁判員のための刑事法ガイド』(法律文化社, 2008年)  
『刑事司法と心理学』(日本評論社, 2005年/単編)

入江 秀晃 (いりえ・ひであき) 12章  
1969年生。東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了/博士(法学)  
九州大学大学院法学研究院准教授  
〔主要業績〕  
『現代調停論』(東京大学出版会, 2013年)  
『現代日本の紛争処理と民事司法3 裁判経験と訴訟行動』(東京大学出版会, 2010年  
/分担執筆)

高木光太郎 (たかぎ・こうたろう) COLUMN06  
1965年生。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学  
青山学院大学社会情報学部教授  
〔主要業績〕  
『証言の心理学』(中公新書, 2006年)  
『ディスコミュニケーションの心理学』(東京大学出版会, 2011年/共編著)

堀田 秀吾 (ほった・しゅうご) 13章  
1968年生。シカゴ大学大学院言語学部博士課程修了/言語学博士  
明治大学法学部教授  
〔主要業績〕  
『裁判とことばのチカラ』(ひつじ書房, 2009年)  
『法コンテクストの言語理論』(ひつじ書房, 2009年)

サトウ タツヤ (佐藤・達哉) 14章, COLUMN07  
1962年生。東京都立大学大学院人文学研究科博士課程中退/博士(文学)〔東北大学〕  
立命館大学文学部教授  
〔主要業績〕  
『方法としての心理学史』(新曜社, 2011年)  
『学融とモード論の心理学』(新曜社, 2012年)

中田 友貴 (なかた・ゆうき) COLUMN07  
1991年生。立命館大学文学部卒業  
立命館大学大学院文学研究科博士前期課程在学中

(\*は編者/執筆順)